

平成 22 年度

第 5 回

ウェブデザイン技能検定

1 級

実技試験概要

試験にあたっての注意事項

受検者は本試験の留意事項・注意事項に留意して作業を行うこと。

受検者は課題 1 から 4 までの 4 課題をを 180 分間で行うこと。

試験問題の詳細は、試験当日配布する。

1. 受検にあたっての注意事項

注意: 受検者は本試験の注意事項を事前に熟読して作業を行うこと。

<注 意 事 項>

1. 受検者が用意するPCは、事前に公開した利用可能なソフトウェア、開発環境などがインストールされており、動作することを確認すること。事前に公開された利用可能なソフトウェアおよび開発環境以外は利用することは出来ない。
2. 受検前に各自の持参 PC について技能検定委員より事前に検査を行うので、個人情報などが含まれてないようデータ等の管理に留意すること。また技能検定委員には各種ソフトウェア操作および開発環境の操作方法について質問することは出来ない。
3. 受検用の PC は、データなどが失われる可能性もあるので、受検に関わるソフトウェア、開発環境以外のデータなどが含まれないように留意すること。事前に用意したデータの使用や利用は不正行為とみなし、その場で退場・失格とし、採点は行わない。受検用 PC のトラブル等により作成中のデータが失われる場合もあるため、各自データ保存やバックアップについて留意して作業を行なうこと。作成中のデータなど、各自データを保存可能な場所に適宜バックアップすることを推奨する。
4. 特段の理由がある場合、開始後 30 分以内であれば入場を認める。ただし、時間延長は認めない。また、試験終了前 10 分間は退出できない。開始より 30 分を超え、制限時間内に作業完了した場合、「作業完了」と挙手をし、技能検定委員に意思表示を行ない試験会場より退出することができる。ただし再入場は認めない。
5. 受検者は、受検用 PC、鉛筆、消しゴム、定規等の筆記用具については事前に用意し、利用することが出来る。また、和英、英和辞書について持込を許可する。手荷物等については、持込を許可するが、受検に関係のないものなどについては、(辞書機能などを内蔵した物品、ポケットベル、携帯電話等)受検中に利用することは出来ない。机上に置けるものは、筆記用具・時計等とする。また、携帯電話を時計の替わりとして利用してはならない。
6. 計時は、受検用 PC の時計で確認するのではなく、技能検定委員に説明された計時機器等を利用すること。また、受検の際には、1 時間経過、2 時間経過、受検終了 30 分前、受検終了 10 分前、受検終了 5 分前、受検終了 1 分前に技能検定委員からアナウンスを行なう。180 分の実技試験終了後は、後述 11 に該当するもの以外は、作業を続けることは出来ない。
7. 受検にふさわしい服装等で臨むこと。空調等の問題もあるため若干の寒暖の変動に対処できるよう留意すること。
8. 受検用 PC から、インターネットへアクセスすることはできない。また、事前に作成した独自のテンプレートや素材を使用することはできない。事前に用意したデータ等を利用した場合は不正行為とみなし、その場で退場・失格とし、採点は行わない。
9. 受検中の用具の貸し借り、PC およびデータ交換は禁止する。
10. 他受検者の受検を妨害する行為をしないこと。
11. 機器等のトラブルが発生した場合、挙手で技能検定委員に知らせ、待ち時間の記録をすること。なお、この際に作業を行ってはならない。また、受検用 PC のトラブルで停止(フリーズ)した場合、その停止時間も測定する。作業が上記理由等で行えない場合、その繰越分は、受検時間終了時に連続して行なう事とする。
12. 受検中に不正があった場合、技能検定委員に不正を指摘された場合、受検者は作業を中止して退場すること。
13. 受検中のトイレは必ず技能検定委員に申し出ること。なお、所要時間については作業時間に含まれる。また、トイレなどで座席を離れる際、PC をログオフするか、アプリケーション等の操作画面、ブラウザの画面などが表示されないよう配慮すること。
14. 制作した課題の著作権は試験主催者であるインターネットスキル認定普及協会に帰属する。
15. 受検中はいかなる場合も技能検定委員の指示にしたがうこと。

2. 実技試験実施にむけての留意事項

実技試験は、原則、受検者が持参した PC を利用して実施される。但し受検者が PC を用意できない場合は検定試験主催者が無償にて貸与することとする。(3. 実技試験用機材等について<検定用 PC>について参照すること)

受検者は 180 分間で作業を完了させること。

本検定試験では、Microsoft InternetExplore 7 以降および、Mozilla Firefox3.0 以降の安定版を指定ブラウザとする。ブラウザは受検者が事前にインストールして利用できる状態にしておくこと。

作業課題で利用する素材は、デスクトップのフォルダ(ディレクトリ)data フォルダに配布している。それぞれの課題に従い、課題データは適切なフォルダ(ディレクトリ)に保存を行うこと。保存するデータは課題分のみとし、不適切なデータの保存や不要なファイルがある場合は減点の対象となる。

作成するデータやページファイルには 2 バイト文字は使用せず、半角英字のみとして、スペースなどをいれずに作成すること。またファイルのデータ形式、拡張子等にも留意すること。保存先は指示されたフォルダを作成し必ず保存すること。問題で規定された以外のデータは一切、採点の対象とならない。

本検定試験では、ハイパテキストタグ付け言語(HTML)については JIS X 4156:2000 (ISO/IEC15445:2000) および W3C(ワールドワイドウェブコンソーシアム)HTML4.01 を推奨し、拡張可能なハイパテキストマーク付け言語(XHTML)はW3C XHTML 1.0 以降を推奨する。段階スタイルシート(CSS)については JIS X4168:2004 および W3C CSS level1 以降を推奨する。

(X)HTMLファイルとある場合はHTMLとXHTMLどちらを選んでもよい。また、作成するHTMLファイルの文字コードはUTF-8 にすること。

3. 実技試験用機材等について

<検定用 PC>

検定に利用する PC には WindowsXP SP2 以降、または Windows VISTA、Windows 7 がインストールされていること。利用する PC には、キーボードおよびマウスが備えられていること。また、検定の際 PC はインターネットにアクセスすることは出来ない。

申請時に自己 PC の持込を選択した者は、検定用 PC は受検者各自で用意すること。PC はデスクトップ PC、ノート PC のいずれでもかまわない。検定用 PC には、下記に掲げるアプリケーションがインストールされ、セットアップされていること。

- ※ 受検用 PC は別途協会の用意する無償の PC を利用することも可能である。
- ※ 各自の検定用 PC には、検定試験に関係しない、アプリケーションやプログラム、・スクリプトが含まれていないこと。
- ※ 各自の検定用 PC には、検定試験に関連のないデータが含まれていないこと。

<検定指定アプリケーション>

受検者が持参する検定用 PC には、以下のウェブサーバ、ウェブプログラミング環境およびウェブコンテンツ作成用ソフトウェアがインストールされていること。以下のソフト以外は検定試験では、利用する事は出来ない。また、各種サーバ、開発環境は規定に従い利用することが出来る。なお、検定に利用するアプリケーションのバージョンなどは下記に記載されているもの以外は使用することが出来ない。

○Web サーバソフトウェア※1

Apache 2.2.x

○Web プログラミング、データベースソフトウェア※1

PHP 5.2.x、phpMyAdmin 2.x、MySQL 5.0.x

<http://www.php.net/docs.php> のマニュアル (HTML形式でもコンパイルしたものでもかまわない)

※1 XAMPP などのパッケージよりインストールしても構わない。パッケージよりインストールしない場合においても各ソフトウェアのバージョンが上記に掲げるものと同一のものであれば利用可能である。

○画像処理ソフトウェア

Adobe Photoshop および Illustrator については、CS、CS2、CS3、CS4、CS5 のいずれかのバージョン

Adobe Fireworks Studio8、CS3、CS4、CS5 のいずれかのバージョン

○アニメーション作成ソフトウェア

Adobe Flash Studio8、CS3、CS4、CS5 のいずれかのバージョン

○Web エディタおよび Web コンテンツ作成ソフトウェア

Adobe Dreamweaver Studio8、CS3、CS4、CS5 のいずれかのバージョン

○テキストエディタなどのソフトウェア

秀丸、サクラエディタ、Terapad、Eclipse

協会の用意する PC にはソフトウェアについては、標準設定でインストールを行なっている。また、Windows 標準のアクセサリ、ワードパッド、メモ帳等が利用可能である。なお、技能検定委員は以上のソフトウェア使用法に関わる一切の質問に対する回答、操作補助は行わない。特に技能検定委員からの指示・説明がない場合、与えられた権限の範囲で各種サーバサービスを利用した Web サイトを構築することが可能である。なお、検定試験中は技能検定委員はサ

ユーザ設定に関わる一切の質問に対する回答、操作補助は行わない。

<ブラウザ>

本検定では以下を指定ブラウザとする。

- **Microsoft Internet Explorer 7 以降、Mozilla Firefox 3.0 以降の安定版**

共に検定用 PC にインストールされ、Adobe Flash Player などもインストールされており、利用できる状態となっていること。

Firefox には Web Developer、Firebug をアドオンして、利用することができる。

4. 検定試験課題および内容

<課題>

仕様に基づいたウェブサイトの構築課題

以下の4課題について仕様に基づきウェブサイト作成に関わる作業をおこなうこと。
素材や仕様の詳細については試験実施時に配布される。

1.ウェブグラフィックデザイン作業

各種グラフィック素材の加工および利用

2.マルチメディアデータの作成作業

Flashを使用したアニメーション作成

3.ウェブサイト構築

仕様に基づいたトップページを含む全3ページのウェブサイト作成(全3ページにはphpによるページも含まれる)

(X)HTML および CSS のコーディング作業

ウェブ標準に準拠したサイト製作

アクセシビリティに配慮したサイト製作

4.サーバサイドアプリケーションの作成

データベースおよびサーバサイドアプリケーションを利用した、ダイナミックなページ作成

(なお作成にあたっては XSS(クロスサイトスクリプティング)、SQL インジェクションなどのセキュリティ対策に留意すること)